

## [幼児教育]

### ○「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた環境の構成や援助の工夫

幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を具体的に設定し、日常生活の中で幼児が何に関心を抱いているのか、何に意欲的に取り組んでいるのか、何に行き詰まっているのかを捉え、その姿から発達を見通した環境の構成や援助の工夫が多くの園で見られました。

先生方が、一人一人の表現する姿を大切に、発想や意欲を大事に受け止め、幼児に「やってみよう」という意欲をもたせたり、「楽しかった」という充実感を味わわせたりしている場面もたくさんありました。また、期のねらいに合わせた環境の構成に加え、幼児の様子を見ながら自発性を尊重できるような仕掛けになっているかなどの観点から環境の再構成もしていただきました。

主体的な姿とは、単に自ら行動を起こしたり、自ら環境に関わったりする表面に現れた行動だけを捉えているのではなく、幼児なりの興味・関心、願い、期待など、内的な動機をもって物事に取り組む姿勢です。幼児の好奇心を掻き立て、様々なことに興味や関心をもたせるような工夫をお願いします。

今年度の園内研修は、「伝え合い」「共有」「関わり」「やり取り」のキーワードが多くあり、降園時の振り返りなど園児の思いをつなぐことを重視している園が多くありました。今後も、関わる人や物を豊かにしながら、子どもの可能性を広げていく援助の継続をよろしく願います。



## [特別支援教育]

### ○障害のある子供の特性の理解と、必要かつ適切な指導・支援の充実

今年度は、通級指導教室が新たに開設され、障害のある児童生徒の学びの場が更に広がりました。また、小学校においては通級指導担当者による巡回指導により、自校において支援を受けることが可能になりました。各校では、指導の経過や支援の方法について共有できるよう引継ぎメモを工夫したり、通常の学級担任と通級指導担当とが直接話ができる機会を生かし、支援方法の検討を重ねたりするなどの体制づくりを進めていただいています。今後も、子供に寄り添った指導・支援の充実をお願いします。



### ○切れ目ない、つなぐ支援の充実

今年度は、「個別的教育支援計画」と「個別の指導計画」の活用方法の検討についてお願いしてきました。特に、「個別的教育支援計画」の内容に関しては、本人及び保護者の意向や将来の希望など、長期的な視点の目標も明らかにしていただき、既存の「個別的教育支援計画」の様式をさらに先生方が使いやすいよう整えていただいた町村もありました。

今後とも両計画を活用しながら、子供たちへの支援に積極的に生かしていただけますようよろしくお願いします。

## 生涯学習係に関わる取組のまとめ

### 【生涯学習係】

今年度は、新型コロナウイルスの影響により予定していた多くの事業が中止や資料配付のみとなってしまいました。開催できた事業の中から「人権教育指導者研修会・社会教育委員研究集会」と「県民カレッジ・オープンキャンパス」について紹介します。来年度は、コロナ禍でも実施できる開催方法を工夫していきたいと考えています。今後も御理解・御協力をよろしくお願いします。